

パラグアイで活躍する日本人 ～国際協力に携わる人々から学ぶ～

村谷 宏佳
横浜清風高等学校

- ◆実践教科：学校設置科目（21世紀講座）
- ◆時間数：10時間
- ◆対象学年：高等学校3年生
- ◆対象人数：8人

◆実践の目的◆

本校では学校設置科目として「21世紀講座」という学校設置科目があります。それは選択制であり、その1つの講座として「国際協力を考える」をテーマに講座を持っています。前・後期それぞれ10回の授業ですが、今回は後期の生徒を対象に授業実践を行いました。

開発途上国の現状を知り、そこで活動をしている日本人の活躍を知ることにより国際協力が必要とされる理由を探る。その上で自分の立場（先進国である日本の国民として）から知らなければならないこと・考えること・行動することを模索する。

◆授業の構成◆

時限・テーマ・ねらい	方法・内容	使用教材
1～3 限目 テーマ： どこの国？ ねらい： 外国に対しての思いこみを検証する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 外国で撮った写真をみせ、どの国のものかを推測させる。（個人→二人→全体） 2. 写真からその国名を想像したかを発表させ、国に対してのイメージづくりをする。 3. 写真に写っていた国についての情報をインターネット、本から調べる。 	写真 世界地図 高等世界地図 レポート1
4 限目 テーマ： 「貧困の国パラグアイ」 基本情報 ねらい： パラグアイの概要を把握する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. パラグアイについての基本情報（調査済み）についてプリントに相談しながら記入することにより共通認識を持つ。 	ワークシート1
5 限目 テーマ： パラグアイの歴史 ねらい： 現在のパラグアイを歴史的に考察する。	<ol style="list-style-type: none"> 1. 歴史を探り、独裁から民主主義へ移行している過程を中心に、どのような国なのかを話し合わせる。 2. 日本との歴史的（政府レベル）関わりに着目させる。 	ワークシート2
6 限目 テーマ：	<ol style="list-style-type: none"> 1. パラグアイに民主主義を定着させるため 	

<p>政府（政策）、民主主義とは ねらい： 民主主義に必要な条件を探る。</p>	<p>に必要なことを模索する。 ☆自分のレポートおよび基本情報から意見交換をする。</p>	
<p>7 限目 テーマ： 子供たち（教育） ねらい： パラグアイの教育システムを知る。</p>	<p>1. パラグアイの人々の習慣・文化を知った上で教育観をとらえる。 2. 独裁政権下で行われた「無教養政策」の影響から日本の義務教育の重要性をとらえる。 ☆自分のレポートおよび基本情報から意見交換をする。</p>	<p>パラグアイで購入したテレセット、レース、銀細工</p>
<p>8 限目 テーマ： 日本とパラグアイ ねらい： 両国の関係を知り、日本の役割を考える。</p>	<p>1. 日本からパラグアイに移住した人々を探る。 2. 政府の政策の一環として移住した人々のみならず、様々な移住を知る。 ☆自分のレポートおよび基本情報から意見交換をする。</p>	<p>レポート 2</p>
<p>9 限目 テーマ： パラグアイで出会った日本人 ねらい： パラグアイで活躍している日本人の活動を知る。</p>	<p>1. パラグアイで活躍する日本人の目的とその意義を知る。 ☆感想・意見交換</p>	<p>パワーポイント</p>
<p>10 限目 テーマ： 国際協力をどのように考えるか。 ねらい： 国際協力はどのような事なの。どのようなことが必要とされ、その中で自分たちにできることはあるのか。</p>	<p>1. パラグアイで活躍する日本人の中で、協力隊だけに焦点を当て、国際協力の根底に流れるものを探る。 2. 日本人として国際協力に対しての姿勢を考察する。 ☆年齢の近い協力隊の方々をみることにより「国際協力とは」の問いに対して各自の考えを一言でまとめてみる。</p>	<p>パワーポイント プリント レポート 3</p>

◆授業の詳細（教材・授業・生徒の反応）◆

★1 限目 教材：フォトランゲージ（外国で撮影した写真36枚）

- 方法：1.外国（4カ国）で撮影した写真を順不同に見せる。
2.それぞれの写真の撮影国を考えさせる。（個人でメモを取らせる）
3.一通り写真に目を通したあたりで4カ国であることを知らせる。
4.それぞれ「何故その写真からその国を連想したか」を発表させ、全体で一つの答えを出す。

生徒の反応：36枚の写真を見て最初から全員一致したのは1枚だけであった。4カ国であることを知らせた後の話し合いはかなり白熱していた。同じ写真を見ても気づく所が違うことに驚いていた。

★2 限目 教材：前回と同じ写真

- 方法：1.それぞれの写真がどこの国のどの場面かを解説。
（アメリカ・韓国・台湾・パラグアイ）
2.地図帳を使ってどこに位置する国を確認する。
3.気候・風土について簡単に触れる。

生徒の反応：写真に隠れた情報を見つけ出すことに面白みを感じていた。
同じ様に見える写真でも違う国でとった写真であることに、各国への思い込みを認識していた。
地図で確認していくと日常あまり意識していない世界の国々の存在に気づく。
パラグアイは、誰も知らなかった。地図で確認するとさらに驚いていた。

★3 限目 教材：インターネット、本

方法：フォトランゲージで使った国の基本情報を調べる。

生徒の反応：インターネットから情報を得ていた。各国の情報を比べるとパラグアイが途上国であることが見えてくる。

★4 限目 教材：各自で調べた情報、ワークシート1

- 方法：1.誰も知らなかった国パラグアイに焦点を当て、話し合いながらワークシートを完成させる。
2.基本情報から疑問に思うことや気づいたことを話題にする。
3.一般事情、政治体制、国防、経済力については日本や他の3カ国と比較する。

生徒の反応：自分が得られた情報をもとに、他国（日本含む）と比較するとパラグアイに援助が必要であると見えてくる。ただし、まだ遠い国といった印象である。

★5 限目 教材：各自で調べた情報、外務省ホームページ、ワークシート2、現地で使っている世界史の教科書

- 方法：1.地形、土壌を調べる。
2.各自で調べた情報をもとに意見交換をする。
3.パラグアイの歴史を探る中で、軍事独裁国家時代に焦点を当てる。
4.自分たちの生活・考え方と比較させながら独裁国家はどのようなものをイメージする。
5.日本とのかかわりがいつ頃からあるのかを意識させる。

生徒の反応：民主主義が根付いた日本で育っていると、独裁ということが国民にとってどのような現象（生活）で影響があるのかわからない。情報を得るにつれ、独裁が

なぜ悪いイメージになるのかははっきりしてくる。

独裁は、一部の人のために国があり、同じ国民でありながら大きな格差を生んでいるもの。

★6 限目 教材：各自で調べた情報

方法：1.各自で調べた情報、前回の話し合いをもとに意見交換をする。

2.民主主義といえるのはどのような状況なのかを探る。

3.パラグアイに民主主義を定着させるために必要なことは何か意見交換。

生徒の反応：民主主義の条件…言論の自由が保障されていること。多数決の原理が定着すること（選挙）。身分の差を無くすこと（経済格差）。

などが主として挙げられた。

民主主義国で生まれ育ち、人間として一人一人が大切に考えられている仕組みだと発言する生徒もいた。

★7 限目 教材：各自調べた情報、パラグアイで購入した伝統文化の本（スペイン語）テレセツト、レース、銀細工など

方法：1.マテ茶を飲みながらレースや銀細工、本などを見る。

2.パラグアイの子ども達が育つ環境について調べたものを発表、意見交換。

3.前回の授業をもとに、独裁政権下で約30年続いた「無教養政策」を中心テーマにする。

無教養政策…政府から与えられた仕事だけ出来ればよいので、教育（学校）は必要ないというもの。

4.日本の教育との比較をしながら「教育を受けない」ということはどのような社会が作られるのかを考える。

5.「学校教育（特に義務教育）は必要か」を話し合う。

生徒の反応：情報を得るための本も字が読めることが条件であることに気づく。無教養政策が30年続くということは親も学校にいけず、字も読めない。考えることや反論することすら出来ない（知らない）。義務教育の大切さを実感していた。日本で教育を受けられることに感謝するといった生徒もいた反面、今まで学校での勉強をおろそかにしていたことへの反省（罪の意識）が芽生えていた。

★8 限目 教材：各自で調べた情報、7限目までの情報、パラグアイでの写真

方法：講義の後、質問意見交換

1.日本からパラグアイへ移住したという事実確認（年号を追う）

2.他国からも移住者は多くいたが、日本人移住者がパラグアイの人々から認められ、尊敬される理由を講義する。

3.政府の政策の一家として移住した人ばかりでなく、様々な移住者がいることを伝える。

4.パラグアイで出会った和太鼓の製作・演奏家、牧畜の専門家を紹介

5.レポートにまとめる（課題）

生徒の反応：日本人が地球の裏側で尊敬される生活や仕事をしてくれたことに感激していた。生徒からは自分たちの生活を振り返り、しきりに反省していた。

感想・意見：原生林を切り開き農地にした移住者は日本人であることを誇りに思い、頑張っていたのに、今の日本の自分達はそれと比較すると足元にも及ばない。「まじめ」が笑いになっている今の日本が豊かな国だと思えなくなった。

★9 限目 教材：自主作成教材 1（パワーポイント）

方法：自主作成した教材（パワーポイント）により、現地でであった活躍する日本人10人を紹介。特に何をしているのか、どのような思いがあるのかを中心に講義。

生徒の反応：色々な職種、場面で活躍している日本人を視覚的に捕らえることにより、イメージがはっきりしてきた様子。紹介した日本人だけでなくもっと多くの人に出会っていることを話すと、とても驚いていた。外国で活躍、しかもボランティアの状態で多くの日本人が活躍していることにも驚きを隠せないようだった。

★10 限目 教材：自主作成教材 2（パワーポイント）、まとめプリント

方法：1.前回の教材からさらに青年海外協力隊6名を紹介する。

2.それぞれの活動についての質問・意見・感想

3.レポートにまとめる（課題）

生徒の反応：最初は、協力隊になる人は特別な能力や技術が必要だと思っていたが、日本人であればできること（原爆教育・平和教育）があると気づいた。また、自分たちも平和を訴える義務があるのではないかと意見は一致していた。真剣に自分ごととして捕らえたために、自分に途上国へ行く勇気・決意が出来るのかという難しいと一口をつぐんでしまう場面もあった。日本にこれだけ志の高い人がたくさんいることに感激していた。

◆所感・反省点・改善点◆

私が国際教育を行うにあたって私が重要視していることは、世界の国々の状況を客観的に捉え人間として同じ時限で考えることと平行して、日本人であることに誇りを持ち自分の意見を堂々と発信して欲しいということです。そのためには、生徒の記憶に残る授業でなければならず、他の授業形態とは異なるものを作っていくことが重要と考えています。記憶に残る授業にするために、視覚的に訴えることと必ず意見を持たせることに重点を置いています。

私自身、今回の研修に参加する前は、パラグアイに多くの日本人が移住していることすら知らず、ましてそこでの日本人の活躍など知りませんでした。現地パラグアイで活躍する日本人の活躍を生徒に伝え、彼らの言葉をそのままに生徒に伝えられたことは、新鮮であったようです。生徒たちは私の想像を超え、国際協力ということを実際に捕らえ、パラグアイに限らず途上国に対する援助のあり方や自分たちのかかわり方を模索しているようでした。

しかし、授業を進めていく上で、週1回×50分というのは想像以上に難しく、時として学校行事が入ると2～3週間時間が空いてしまい、前回の内容を正確に思い出させるのに時間がかかりました。選択授業だったので生徒の意識は高く、毎回興味を持って臨んでいました。特に現地で購入したものや写真など視覚的に訴える教材を使ったときの印象は強く残ったようです。

反省点としては、多くのことを伝えたいと言う気持ちが先行してしまい、与える情報量が多すぎることもあったことです。より多くの討議時間を持たせることが重要と考えるので、今後さらに厳選した教材作りを進めるつもりです。

◆参考資料◆

☆自主教材 1 抜粋 (9 限目使用)

パラグアイと日本人

パラグアイで働く・・・
尊敬される「日本人」

農業

日差し調整の布

レタス

農業

植物の病気のお知らせ

*Daño de virus
La causa por la que se produce es...
Daño de nematodos
Es una serie de gusanos de...
Tienen que estar al servicio de...
Tienen que estar al servicio de...*

農業

害虫教育

農業

家畜

農業

これはなに？

これはO×△だよ...

ギャー！

教育

注！

注！

パラグアイの小学校

教育

教育

ビーズ作り
手に入れられるものを使って
販売に繋がるもの指導

コミュニケーション(自己表現)
社会生活をする上で必要となるマナーや
コミュニケーション力を養成する

教育

養護教諭としての仕事のほかに
お休みの日を利用して
原爆展開催

今日の主演



☆自主教材 2 (10 限目使用)

協力隊の人々 1



水野さん

野菜

大学で農業を学び、協力隊に応募し、パラグアイの農家で活躍している。
パラグアイの人々は、健康意識が低く野菜の大切さ・必要性を知らない。
問題は、野菜の作り方(育て方を)を教えるが、食べ方を知らないため売れない。
日本でも地方の農業活性化のために頑張りたい。

Q1. 水野さんはなぜ協力隊として生活の不便なパラグアイに来たのでしょうか？

協力隊の人々 2



今村さん

家庭科

大学を卒業して、特技を生かし家政の協力隊として赴任。
パラグアイの人々は、手先が器用なのでビーズを使った飾りをおしえたり、ヘチマを使ったスリッパを作ったりしながら、児童だけでなく母親からも喜ばれている。
日本に帰国したら、学校の先生になりたい。

Q2. 今村さんはなぜ手芸を教えるみんなに喜ばれているのか？

協力隊の人々 3



比嘉さん

体育

体育の協力隊としてラテンアメリカ教員養成校に赴任している。
比嘉さんを見つめる子供たちの眼差しはとてキラキラしていた。
小学1年生から6年生くらいまでの児童を教えているが、週に1~2回しか比嘉さんの授業がないので、その時間をみんな待ち望んでいる。

Q3. 比嘉さんがこの学校で教えている体育の重要性(必要性)とはなに？

協力隊の人々 4



佐藤さん

日本語教育

中学校の国語の先生。
現職参加で日本語を教えている。
ニホンガッコという名の大規模な学校で、日本語のみならず日本文化にも力を入れている。

Q4. 佐藤さんがパラグアイの学校で果たす役割はなに？

協力隊の人々 5



西山さん

レクリエーション
コミュニケーションマネージャー

人の役に立ちたくて協力隊に応募した。
貧困のため学校に行けない子供たちが集まるデケニ財団で活躍している。
レクリエーションを通じて伝えることの大切さを学ばせたい。
人間らしい生活をするための基本的な繋がりをもちたい。

Q5. 西山さんはなぜコミュニケーションが大切だと言うのか？

協力隊の人々 6

日本では養護教諭をしている。
現職参加で協力隊に応募し、養護教諭として赴任しているが、その傍ら学校の休みを利用して原爆教育に各地を回り、平和教育を実施している。
原爆に関する資料は、広島から取り寄せている。パネルや説明ビデオなどスペイン語で作られている。



川村さん

保健衛生
原爆教育

Q6. 川村さんがパラグアイで原爆展を開く意義は？

☆レポート例

